

郷土の誇りをタスキに乗せて

一般は健闘するも今年も3位：津中は9チーム中7位でゴール

激しいアップダウンが連続する峠道を駆け抜ける「第59回熊日三太郎駅伝大会」は1月11日、水俣市役所をスタート、芦北町の旧田浦町役場をゴールとする40・9キロのコースで行われました。



県内の駅伝では最も歴史が古い本大会は、水俣市、葦北郡の1市2町から一般7チーム、高校3チーム、中学9チームの計19チームが参加。一般・高校6区間、中学10区間でたすきをつなぎました。レース結果は、一般の部総合①水俣市②芦北町③津奈木町。中学校の部では、津奈木中学校が9校中7位という成績をおさめました。



↑1区から2区へのタスキリレー
(本町総合クラウンド前)
【右】宮嶋弘行選手→竹本昌広選手
【上】田口伸二選手→藤原審二選手

今後の活躍に期待！

本町のアンカーを務めたのは、久しぶりの大会参加となる齋藤三平さん（桜戸地区）と岩崎平さん（日当地区）。今年は、二人とも満足のいく結果とまではいきませんでした。若手が定着せずチームの大半が40代後半から50代というチーム状況下にあつて、2人は本当に貴重な存在。今後の活躍に期待します。

また、今年活躍が光ったのが山登りの5区（4・1km）をチーム最高の区間3位で走った村上泰央選手（町中地区）。「来年は更に上を目指して頑張りたい！」と意欲十分でした。



【写真右】齋藤三平さん
【写真左】岩崎 平さん

津奈木中の今後の巻き返しに期待！

津中チームは、近年では第56回大会の3位を最高に、57回大会4位、58回大会5位という結果でしたが、今年は7位という結果に終わりました。生徒数など学校規模から見れば十分に健闘してくれたと思いますが、今後の更なる巻き返しを期待します。



永年の功績による受賞！

松永 清さん（竹中地区）

藤原審二さん（大泊地区）

今回の出場が10回目となる松永清さんと、同じく20回目となる藤原審二さんが、長年の功績を称えられ功労者賞を受賞されました。



↑写真は、表彰状を受け取る藤原審二さん